車椅子障害者にとっての無人駅

NPO法人ちゅうぶ　堀　篤子　簡易電動車いす利用者

地方公務員を定年退職しちゅうぶに入職3年
総務部に所属し、機関紙編集、当事者活動に従事

主に参画している活動

DPI（障害者インターナショナル）バリアフリー部会
アクセス関西ネットワーク　運営委員
障大連（障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議）交通部会担当
万博ユニバーサルデザインの各検討会、ワークショップに参画

交通機関の利用

高校時代は電車通学（松葉杖時代）　地方公務員時代は業務出張（車椅子）
現在は、通勤、出張、バリアフリーチェック等で、ほぼ毎日利用

【車椅子障害者にとっての無人駅の困りごと】

○スロープ板による介助を依頼し乗降する場合、有人駅と比較して、無人駅では多くの時間を要する。

○通勤、通学、通所等で、障害者の利用が多い時間帯では、一層長時間の待ち時間が発生する。

○電鉄会社、駅によって、無人の状況、係員配置の状況、応援体制等がまちまちであり、乗車に要する時間が見通せない。

○終日無人駅、駅舎の無人時間帯、改札窓口無人の有無等の情報提供がWEBや駅掲示等で周知されていない電鉄会社もあり、予定が立たない。

○介助依頼の事前連絡をすることが前提で、それが日常となるとたいへんな負担。（依頼した電車の時間に行動が制約される、精神的、時間的、金銭的な負担）

○インターホンの構造が多様な障害者（上肢、言語障害、視覚障害、聴覚障害、知的、精神、発達障害等）の実態が考慮されておらず、利用できない場合がある。

○これまで電車を一人で利用できていた人が介助者がいないと利用出来なくなる。電車での外出を諦める人がでる。

○隣駅を利用するように勧められたり、終電車の利用を断わられたりなどがある。

【解決に際して望まれること】

(ハード課題)

〇駅ホームと電車との段差を解消し、スロープ板が要らない駅の拡大。

〇インターホンを改良し多様な障害者が利用できるようにする。

(ソフト課題)

〇駅ごとの無人駅情報（無人の時間帯）をWEBなどでわかりやすく公表する。

〇車掌等による携帯スロープによる介助の拡大を図る。

〇事前申し込みを前提とせず、できるだけ介助（乗降）の待ち時間の短縮を図る。

〇利用の集中が見込まれる時間帯等は、必要に応じ委託や巡回の強化も含め検討する。

(無人化に際して)

〇無人駅の新規無人化、運営体制の変更の際には、障害者団体と意見交換してほしい。